

2022年12月期 第2四半期決算説明会 質疑応答の要約

2022年8月8日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネット CFOの安田、グループ執行役員の稲垣、GMOアドパートナーズ代表取締役の橋口より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結全般

- 【Q1】 インキュベーション事業での利益計上などもあり、利益面で余裕がある状況だと認識している。上場各社、また本体直下の会社での来期以降に向けて戦略投資に対する考え方は？
- 【A1】 対前年の増益額15.8億円をブレイクダウンすると、グループ上場4社で約11億円の増益。それ以外はこれまで投資フェーズであったような企業群の成長に加え、共通コストの配賦額減少もありました。コスト削減による一時的なものではなく、顧客基盤も拡大しており、持続性があると考えています。
- 【Q2】 岩盤ストック収益で単価が上昇しているという説明があった。GMOペパボでも価格改定を行っているが、単価上昇に対する考え方を教えて欲しい。
- 【A2】 岩盤ストック収益のブレイクダウンとしての単価上昇は、結果にすぎません。また、個々のサービスについていわゆる親会社としてグループ各社の個々のサービスの価格についてコントロールはしているわけではありません。圧倒的ナンバーワンのサービスを低価格で提供する我々の基本方針は不変です。

●インフラ事業

- 【Q3】 イエラエのグループジョインによるPL影響はどうなっているか？
- 【A3】 イエラエについてはこの2QからPLヒットが始まっています。売上については6億強の貢献があったものの、まだ投資先行であることから、のれんなどの償却2.4億円を含めて、4億強の利益押し下げ要因になっています。なお、この数字については、グループジョイン時の想定線で推移しております。SaaSプロダクトの開発を通じ中期的なシナジーの創出を図ってまいります。
- 【Q4】 イエラエを含め、セキュリティ事業の売上が拡大しているが、利益貢献のタイミングはいつ頃を想定しているか？
- 【A4】 イエラエとのシナジー創出については、イエラエにとっての既存のサービスをインフラのお客さまへのクロスセルである「サイバーセキュリティ for 銀行」などで短期的には手応えを感じているが、本格的なシナジーはSaaS型のプロダクトの開発によってもたらされると考えています。タイミングについてお話するためにはもう少しお時間をいただきたい。

● 広告メディア事業

【Q5】 営業利益を安定的に創出できる様になってきた印象だが、外部環境については不安定なようにも見えます。下期に向けての広告・メディア事業の見通しを教えてください。

【A5】 上期は経済再開などの影響もあり好調に推移しました。下期についてもネット広告市場は活況に推移すると見えています。上期は一定程度貯金ことができましたので、来期を見据え、投資を積極化させていきたいと考えています。

【Q6】 ネット広告のところで業種別の強弱について教えて欲しい。

【A6】 今までコロナの環境下で積極的にマーケティング行われていなかった業種・領域、例えば、旅行関係などで積極的な引き合いがありました。ただし、まだコロナ前の水準まで戻りきっているというわけではありません。

● 暗号資産事業

【Q7】 マイニングの外部環境について、グローバルのハッシュレートが下がるなどGMOとしては収益を出しやすい環境になっているのではないかと今後の外部環境に対する見通しを教えてください。

【A7】 グローバルハッシュレートは確かに下がっているが、暗号資産価格も下がっており、合わせて考えると収益性の観点からは外部環境はあまり良好ではないという認識です。また、内部環境についても、外部業務委託しているマイニングセンターの運用体制が不安定な状況が続いております。課題認識し、鋭意取り組んでいくが、当面はこの状況が続く可能性が高い見通しです。

【Q8】 マイニングセンターの稼働率の低下は電力の調達の問題によるものなのか？マイニングセンターのハッシュレートが、従前開示があった500PH/sの6割程度まで下がっているように見えるが実態はどうか？

【A8】 2Q末の段階ではご指摘いただいた水準です。稼働率の低下は、外部業務委託しているマイニングセンターの運用体制が不安定な事によるもので、設備の損耗などがあるわけではありません。

● インキュベーション事業

【Q9】 この2Qに特別利益に170億ほどの計上があったが、インキュベーション事業との関係は？

【A9】 特別利益については、持分法適用会社であった2C2P社の株式売却によるものです。インキュベーション事業で売却したものは売上段階から計上されており、インキュベーション事業とは独立の取引です。

【Q10】 インキュベーション事業での株式の一部売却と言うことだが、詳細を教えてください。

【A10】 2Qの収益のほとんどは、東南アジアのペイメント領域に特化したファンド「Global Payment Fund」において「Coda Payments」社株式の一部売却があったことによるものです。今回、手元保有分の40%相当を売却しました。残り60%相当については、ファンドの満期などもあるものの当面保有を継続する方針です。

●その他

【Q11】 Web3について、短期・中期・長期の観点から、どの領域での収益貢献を期待しているか？

【A11】 Web3領域については、様々な領域に事業機会があると考えています。ただし、現時点では特定の領域に絞り込む段階ではなく、この大きな潮の流れをしっかりとらえ、Web3起業家との対話の中で見極めて行きたいと考えています。

【Q12】 人件費、広告宣伝費、外注費・業務委託費の増減についてコメントが欲しい。

【A12】 人件費については、インキュベーション事業の業績拡大に伴う一時的な増加、業績連動賞与引当金の計上、イエラエの連結開始が主な要因となっています。広告宣伝費についてはアクセス事業での広告支援金の計上、GMOペパボでのminne・SUZURIでの広告投資がありました。外注費・業務委託費については、イエラエのグループジョインによるものが大きく、その他イレギュラーな動きはございません。

以上